

公開授業デザインシート

科目 古典 『伊勢物語』	「芥川」	学年 高校1年 1年3組22名	氏名 加藤 小百合
本時のタイトル 文脈を理解した上での現代語訳ができるようになるために。			
本時の目的 助動詞、助詞を正しく指摘し、文法と文脈に基づいた現代語訳ができるようにする。		生徒像 学習に対し、意欲的なクラスである。古典の授業に関しても努力しており、用言については慣れてきたところである。現段階の課題としては、助動詞であり、現代語の感覚に引きずられない現代語訳ができることを目標に努力している。	
本時の達成目標		対応する評価方法	
①助動詞について、文脈にあった意味を指摘できる。		①助動詞の指摘を各班で確定させる。(机間指導観察)	
②「なむ」の識別について指摘できる。		班で確定させた助動詞を「ロイロノート」に書き、班ごとの解答を電子黒板に映し出す。	
③文脈をとらえた現代語訳ができる。		②「なむ」について、各班の答えを「ロイロノート」で映し出す。(発表)	
		③文法に基づいた現代語訳をつくる。(発表)	
時間	指導内容・生徒の活動	指導方法・評価	
2分	本時の目的確認、グループを作る。音読。 ※前回までに用言の確認は終了。	声が出ているか。歴史的仮名遣いに気をつけているか。【机間指導】	
10分	司会・書記確認。 予習をもとに、各班で助動詞を確認し、班としての意味を一つに決める。 各班ロイロノートにまとめる。 各班の品詞分解結果を電子黒板に映し出し他の班の状況を見る。	自分のノートを広げて、しっかり皆と確認できているか。予習はきちんとやってきているか。【机間指導】	
10分	各班の助動詞の意味を確認しながら講義。	司会者の指示のもと、話し合いが行われ、必要に応じて教材等を使い学習しているか。【机間指導】	
5分	現代語訳の前に、今日のポイント「なむ」の識別についてグループで話し合い。 ※意見が分かれた場合は、ここで答えを出さない。	ヒントとして、文法書の識別のページを伝え文脈との関連性を考えさせる。	
10分	「なむ」がどのような意味でとればよいかも考え、また省略された目的語も考えながら現代語訳を完成させる。 ※他の文法にも注意しながら。	単語、文法、状況を捉えながら現代語訳を考えているか。【机間指導】	
10分	現代語訳を発表。 その際、「なむ」をどのように解釈したかも発表。 それを踏まえての講義。	文法、文脈に基づいて現代語訳を考えているか。【発表】	
3分	本時の自己評価を入力を課題として指示。 (まなBOX)		

公開授業デザインシート

科目 国語総合（古典）	学年 1 学年	氏名 高附 直樹
本時のタイトル 伊勢物語「芥川」		
本時の目的 <ul style="list-style-type: none"> ・助動詞の意味、活用に注意しながら正しく口語訳をする。 ・男の心情の推移を考える。 ・当時の「鬼」について理解する ・和歌に込められた「男」の心情を正確に理解する。 	生徒像 <ul style="list-style-type: none"> ・個性的で明るい生徒が多く、反応は良い。 ・学習への取り組み方に大きな差があるのでグループ学習で、バランスを取りながら理解を深めさせて行きたい生徒達である。 ・文法に対して苦手意識がある生徒が多い。 	
本時の達成目標	対応する評価方法	
1 文法事項 <ul style="list-style-type: none"> ・「にき、にけり」など…完了+過去 ・「更けにければ」…已然形+ば ・「え～ず」…不可能 上記を中心に確実に押さえる。 2 当時の「鬼」について理解する。 3 和歌の鑑賞 「白玉か何ぞ・・・」 <ul style="list-style-type: none"> ・男の心情（女を失った悲しみ）を「白玉」、「露」などを手がかりに理解する。 	1 前時の復習（品詞分解）を各班内で確認し合い、発表させる。 【机間巡視、観察】 2 事前に文学作品の中に出てくる「鬼」について調べさせる。 源氏物語「夕顔」など各班で発表させる。 【事前指導】 3 「問ひし」…尋ねたのは「女」 「答へて」…答えたのは「男」 「消えなましものを」を文法的に理解することによって、「男」の心情を読み取る。 【机間巡視、観察】	
時間	指導内容・生徒の活動	指導方法・評価
3分 5分 15分 15分 5分 5分	助詞、助動詞の復習 本時の目標を提示 「鬼」について各班より発表させる 特に文法の重要事項を各班で確認し、発表させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・「にき、にけり」など…完了+過去 ・「更けにければ」…已然形+ば ・「え～ず」…不可能 ・「知らで」…打消接続 ・「明けなむ」…願望 和歌の品詞分解をして「男」の心情を読み取らせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・「人の」…「の」が主格、「人」は「女」。「問ひし」…「し」は過去、「女」が尋ねたのは「いつのことか」 「答えるのは「男」 ・「消えなまし」…不可能な希望 ・「ものを」…逆接 男の心情の推移をまとめる。（各自） <ul style="list-style-type: none"> ・数名指名して発表 まとめ 文法事項、男の心情の推移を再確認。 次回の予告	・助詞、助動詞の文法的意味を質問し、発表させる。 ・事前に確認し、時間を厳守させる。 ・文法的解釈から丁寧に口語訳が出来るようにする。 ・各班内で話し合っているか、机間巡視し確認する。 ・「男」と「女」の心情をそれぞれの立場で理解出来ているかを確認する。 ・「消えてしまいたい」と思うほど「女」を失った「男」の悲しみを理解させる。 心配な生徒が理解出来ているか確認。

公開授業デザインシート

科目 現代文B	学年 高校2年	氏名 悉知 由紀夫
本時のタイトル		
本時の目的 短歌の解釈	生徒像 指示されたことには素直に取り組む一方、勉強に対する取り組みには差がある生徒たちである。	
本時の達成目標	対応する評価方法	
短歌を語彙と文法に注目しながら正確に意味を解釈することができる。	グループワーク・観察	
時間	指導内容・生徒の活動	指導方法・評価
	<p>本時で扱う短歌を範読する。</p> <p>短歌をノートに写し各句に分ける。</p> <p>短歌の句切れを確認する。</p> <p>解釈上注意してほしい語句・文法をとりあげる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>グループワークで、意味を交換しつつ短歌の意味を考えていく。一つずつ丁寧に調べるよう指示する。</p> </div> <p>数名の生徒の意見をながら、短歌全体の意味を考えていく。</p> <p>残り時間を考えながら、次の短歌に進む。</p>	<p>生徒の作業状況を確認する。</p> <p>グループでの活動状況を確認する。</p> <p>まじめに話し合えているかを確認する。</p> <p>調べる際に注意することがあれば机間巡視をしながら指導していく。</p> <p>生徒の活動を確認する。</p>

公開授業デザインシート

科目 国語総合（古典）	学年 高校1年生	氏名 関根 弘倫
本時のタイトル 意味・接続・活用形		
本時の目的 助動詞における3つの大事なポイントを実践的に学び、ただ覚えるだけでなく、理解をしつつ覚えられるようにする		
本時の達成目標		対応する評価方法
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が助動詞の特徴をつかむ ・関連性を意識し、覚える ・小テスト等でアウトプット出来る 		<ul style="list-style-type: none"> ・ロイロノート スライド ・グループワーク時の活動 ・小テスト
時間	指導内容・生徒の活動	指導方法・評価
0:00	・前時の復習 助動詞とは何か	<ul style="list-style-type: none"> ・助動詞は文の意味を決める大事な要素であることを覚えているか確認 ・この時点ではまだ解けないことを気づかせる
0:10	・プリントno. 1演習をグループで解く	
0:15	・A、B、Cに分かれてそれぞれプリントno. 2を解く	<ul style="list-style-type: none"> ・A「意味」、B「接続」、C「活用形」のヒントが載っているプリントを演習する
0:25	<ul style="list-style-type: none"> ・始めのグループに戻る。 それぞれの知識を用いて、プリントno. 3 (no. 1と同じ) を解く 	<ul style="list-style-type: none"> ・3つのプリントをいかにまとめて考えることが出来るか 1人に依存しないように注意しながら机間巡視する
0:40	<ul style="list-style-type: none"> ・各グループで助動詞を訳す上で必要な知識を1つロイロノートで提出させる 	<ul style="list-style-type: none"> ・3つすべて大事だが、あえて1つ挙げさせる 個々のやりやすい形を模索する
0:47	<ul style="list-style-type: none"> ・最後の振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> ・助動詞を扱う上で大事な3つの要素を理解出来たら本日の目標達成とする
0:50	<ul style="list-style-type: none"> ・終了 	
<ul style="list-style-type: none"> ・本時の工夫点、指導をお願いしたいこと ・助動詞の「意味」「接続」「活用形」を意識させる ・助動詞の活用表等を覚えることをどう向き合わせるか。暗記は学習の基本であると考え、その行為をいかに自分で出来るかが勝負であるとする。 		

公開授業デザインシート

国語科（古典・言語・文法）	学年 1年B組	氏名 長谷部 洋子
本時のタイトル 故事成語を四コマ漫画で表現しよう		
本時の目的 中国の古典に由来する言葉が今も生活の中に生き続けていることに気づく。 故事成語を四コマ漫画で表現する話のいわれを現代風にアレンジして発表する。	生徒像 素直で明るく、前向に取り組む生徒が多い。挙手をする生徒もいる。理解も早い。一年後半に向け、意見交換などの場を盛り込んでいきたい。	
本時の達成目標	対応する評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 故事成語を選び、四コマ漫画で表現する。（棒人間でもよい。） ・ いわれのある言葉が身近にあることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昔のいわれを理解し、今風に分かりやすく表現できたか。 ・ これからの言語生活に故事成語を生かそうとする気持ちが養えたか。 	
時間	指導内容・生徒の活動	指導方法・評価
導入 5分	小文漢字問題	自己採点させる。
展開 25分	本時の学習課題 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin: 5px 0;">故事成語を四コマ漫画で表現しよう</div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 身近に感じた故事成語を選び、四コマ漫画で表現する 吹き出し、キャプション、彩色応用 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 四コマ漫画の構成を思い出させる。 起承転結 (参照) 新聞 四コマ漫画等の提示 参考資料 ワークプリント・資料集 ・ 故事成語の意味、使われ方などを各自の発表を通して確認させ合う。 ・ 工夫を凝らした点、苦心したところなど述べさせる。 ・ グループ一押し作品を話し合わせる。
17分	出来上がった作品を発表・鑑賞し合う。 4人1組のグループを作る。 ○ グループ推薦作を学級の前で発表する。スクリーン応用 <ul style="list-style-type: none"> ・ 友達の作品を紹介する。 この故事成語を取り上げた理由・良かった点を述べる。 ・ 作者から工夫した点（絵・吹き出し）等を述べる。 日常生活のこんな時に使えることも添える。	
まとめ 3分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 二千年以上にわたる言葉が今日まで続いていることに思いを馳せる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 二千年に渡る故事成語を身近に感じる事ができたか。

公開授業デザインシート

科目 国語（古典）	学年 中学3年	氏名 持田 寿美子
本時のタイトル 演じて味わう「忍ぶ恋」		
本時の目的 ・ 古人の心情を理解し、親近感をもって和歌を読み味わう。	生徒像 大変素直な生徒が多く、個々の感性は豊かだが、自分の思いや作品の感想を發表することに消極的なクラスである。本時では、ペアワークやグループワークで、感想や意見を交換する場を設け、演劇的手法を取り入れて生徒が主体的に活動できる環境を作る。なお、演劇的手法については、本時に至るまでに、数回経験のあるクラスである（他教科も含む）。 和歌の鑑賞については、万葉集・古今和歌集で学習済みで、AL要素を取り入れて、和歌に合う写真を撮影する試みも実施した。	
本時の達成目標	対応する評価方法	
1、「玉の緒・・・」（A）和歌の鑑賞 2、追加された二首（B・C）を足掛かりに、主題を見出す 3、Aの歌についての解説を聞き、作者の想いを理解する。 4、演劇的手法を取り入れ、古典に親近感をもって和歌の世界を味わう。	1、提示された和歌について、リズムや音に注意しながら読み味わうことができる。 【机間指導・観察】 2、ペアワークでの話し合いを通じて主題を見出すことができる。【机間指導・観察・発表】 3、古語、文法、作者についての解説を聞き、作者の想いの強さを理解できる。 【机間指導・観察】 4、グループワークを通じて生徒が主体的に活動し、3で理解したことを表現することができる。【机間指導・観察・発表】	
時間	指導内容・生徒の活動	指導方法・評価
3分	前回までの復習（新古今和歌集の特徴） 本時の目標の提示。	
9分	和歌の提示 A 玉の緒よ絶えなば絶えね 長らへば忍ぶることの弱りもぞする B 忍ぶれど色に出にけり我が恋は 物や思ふと人の間ふまで C 恋すてふわが名はまだき立ちにけり 人知れずこそ思ひそめしか	・「玉の緒」とは何か、何を「忍ぶ」のか、想像しながら音読をして、和歌のリズムを味わう。上の句に連続して用いられる「た」の音を強調した音読を行うことで、この和歌の持つ強さを意識させる。 ・同じ主題を持つ二首の和歌を提示。
3分	共通点を考える（ペアワーク）	・三首の和歌の共通点から、Aの和歌の主題を考えさせる。 （予想される回答：「恋」→「秘めた恋」→「忍ぶ恋」と導けるように生徒の反応を見ながら適宜解説を入れる）
15分	Aの和歌についての解説 Dの和歌の提示 生きてよも明日まで人もつらからじ この夕暮をとほばとへかし	・作者が置かれた環境から、恋愛が許されない状況であったことや、謡曲「定家」・法然との逸話などを差し込みながら、この和歌がもつドラマチックな背景を生徒に理解させる。 ・式子内親王の別の歌（Dの和歌）を提示 ・この後の演劇のために、生徒の気分を高揚

15分	<p>4グループに分け、作者の想いを一言で演じる。</p> <p>グループから代表者を選出し、発表する。</p>	<p>させるよう意識して解説を展開する。</p> <ul style="list-style-type: none"> • この後の演技に繋がるよう、既習の歌との違いや思いの強さを意識させる。 • 生徒が恥ずかしがらずに演技ができるよう発声練習をしてからグループワークに入る。 • 積極的な生徒から声を発することで、全員が演技に入れる雰囲気をつくるよう配慮する。 • 平坦な演技にならないよう、机間巡視の際に指導を入れる。
5分	<p>本時のまとめ</p> <p>次回の予告</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 作者の想いを理解した上でAの歌を朗読する。